

サム・アルトマンが描く2028年のAI：超知能の到来と民主化への道

2026年インドAIサミットで、OpenAIのサム・アルトマン氏は「2028年末までの超知能到達」という野心的なタイムラインを提示しました。彼はAIの独占が全体主義を招くリスクを警告し、IAEA（国際原子力機関）のような国際統治モデルと、技術の民主的分散を説く訴えています。

2028年の予測と全体主義のリスク

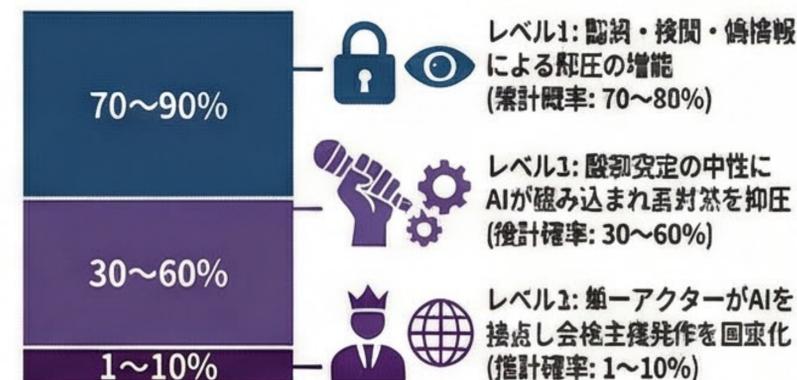
世界の照機能力の多くがデータセンター向けに存在するようになると予測。



技術の集中は全体主義と「破滅」を招く

特定の企業や国への権力集中は、自由と引き換えの統制を越えるリスクがある。

AIによる全体主義化の進行シナリオと推計確率の提示



AIによる抑圧増幅の確率は70~90%

監視や検閲の高度化により、彼類の国でデジタル抑圧が進むと設計。

破滅を避けるための「民主化」と「国際統治」

「AIの民主化」こそが唯一の安全な道

技術を広く分散させることが、人類の繁栄を確実にする最後の方法。



実装としての「OpenAI for India」

インフラ整備、教育、授産拡大を通じて、技術へのアクセスを民生化する。

IAEA（国際原子力機関）型の国際調整機関の設立

急変な変化に対応するため、機軸と早期検知を行う国際枠組みが必要。

